



※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

No.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容※	診断後の実施内容	資料(状況写真又はアーカイブス)
1	国道25号	大阪府柏原市国分東条町地先法面崩落(緊急診断)	2023年6月3日	京都大学経営管理大学院 肥後教授	法面の表層に分布する崖錐堆積物が崩壊し、土砂の一部が道路に流入した。	現状ではさらなる大きな崩壊につながる可能性は低いと考えられること、落石シミュレーションの結果からも安全性が確保できると判断できるため、応急対策としては、土のう設置でよい。その後、適切な監視体制を構築したうえで、上部斜面の不安定な土砂の撤去、倒れそうな木の伐採等を行い、応急的な安全を確保すること。恒久対策としては、法枠工等の斜面安定対策を実施するのがよい。	崖錐堆積物層の層厚を確認したうえで、のり枠と鉄筋挿入工で対応する。	
2	国道42号	和歌山県東牟婁郡太地町森浦地先国道に平行する河川護岸の崩落(緊急診断)	2023年9月6日	和歌山工業高等専門学校 林教授	道路兼用護岸擁壁が崩壊し、路面が陥没した。	今回の被災は進行性があるものではないため、応急対策としては、現在実施している袋詰め玉石による対策で問題ない。路盤、舗装、防護柵の復旧が出来れば定期的な観察を行うこと。恒久的な対策は、大型ブロック積み擁壁またはもたれ擁壁と前面に根詰めブロックを設置することで問題ない。	路面下の空洞の無いことを確認後、本復旧の検討を行う。	
3	国道26号	和歌山県和歌山市大谷地先軽量盛土の変状	2023年10月5日	京都大学 大津名誉教授 和歌山工業高等専門学校 林教授	軽量盛土(EPS工法)の下方壁面材の損傷が顕著で、はらみ出し、破損等の変状が見られる。	化粧パネルを貼り付けたあとでコンクリート床版を載せたことで変状が発生したと想定される。施工当時の資料を再確認すること。漏水確認のため、側溝の目地を確認し、清掃を行うこと。変状はモルタル等で補修を行うこと。EPS材の材質劣化を防ぐため化粧パネルの補修を早期に行うこと。沈下量の計測については、補修後も引き続き実施すること。	診断結果に基づいて、計測および対策を実施していく。	
4	国道42号	国道42号 和歌山県那智勝浦町浦神道路横法面からの落石(緊急診断)	2023年10月12日	京都大学 大津名誉教授	道路横のり面で岩盤が崩壊し、落石が道路に到達した。	トッピングの崩壊形態が考えられるが、現時点では原因が不明であるため慎重に対応すべき事象である。応急対策としては、交通車両側に落石が到達する可能性が低い場合、大型どのうの設置のみでよい。ポケットやネットの裏にたまった落石、不安定な岩塊の撤去。現状のネットを活用しつつ、高エネルギー網やロープ掛工等を設置すること。	恒久対策工の比較検討を行い、対策を行う。	
5	国道28号	兵庫県淡路市釜口地先海岸擁壁の洗掘	2023年10月26日	神戸大学 高田名誉教授 関西大学 楠見教授 神戸市立工業高等専門学校 鳥居教授	道路兼用護岸擁壁において張りコンクリート基礎部に洗掘が確認された。	現状見る限り道路への影響は問題ないと考える。洗掘の発生時期が不明のため、月1回の巡視や台風等の直後に現地状況を確認すること。擁壁下部の洗掘が進行している場合は、応急対策として袋詰め玉石による埋め戻しを行い、恒久対策としてコンクリートでの根詰め工を行うこと。グランドアンカー工のアンカーキャップは早急に対策し、補修完了まで状態も確認すること。擁壁上部の路面の沈下状態も確認すること。	診断結果に基づいて、計測・点検および対策を実施していく。	
6	国道8号	福井県南条郡南越前町大谷地先斜面地すべりの観測	2023年10月26日	福井大学 荒井名誉教授 立命館大学 小林教授 福井大学 藤本准教授	過年度に診断を受けた道路を横断する2箇所の地すべりについて、近年大きな変動が確認されていないため、観測頻度を見直したい。	観測頻度は年4回程度でよい。積雪時期でも温暖日の融雪があるため、リアルタイムによる動向確認は必要である。道路に亀裂が生じるなど動きがみられる箇所は、巡視の際に補助的に計測を行うこと。豪雨後および地震後の臨時点検も検討すること。大規模な地すべりであり、当面はモニタリングで様子を見ること。排水ボーリングが重要な働きをしているため、排水量を維持するために定期的な洗浄を検討すること。	診断結果に基づいて、モニタリングを継続していく。	

7	国道25号	奈良県奈良市中畑町盛土 ランクダウン	2023年11月15日	京都大学 大西名誉教授 大阪産業大学 小田教授 京都大学大学院 岸田教授	法枠内の土砂流出やのり面の侵食、縦排水路への土砂堆積、路面の軽微な亀裂変状が見られたため、H19の防災ドクターの助言をもとに水路の補修等の対策を実施済。その後大きな変状の進展は認められないため防災点検のランク変更を行いたい。	・盛土全体は安定している。地下水位は1年間の観測の結果、低い状態、現状では構造物に悪影響はない。宙水については、安全計算により安全率が1.0を切る場合は、水抜きボーリングを実施すること。豪雨時に目地からの湧水を確認し、水量と土砂流出の有無を確認すること。	豪雨時に年2回程度の観測は引き続き継続する。「要対策」判定は「カルテ対応」判定に変更する。	
8	国道24号	国道24号 京奈和自動車道 紀の川IC路面変状 (緊急診断)	2023年12月6日	京都大学 大西名誉教授	紀の川IC(オンランプ)の路面に連続した開口亀裂が発生した。	現地変状の状況から円弧すべりが発生している可能性があるが、原因を特定するためにはさらなる調査が必要である。そのため、ボーリング調査を実施し、すべりの範囲、変状原因を確認することが必要である。応急対策は、変状箇所からの水の浸透を防止し、さらなる変状進行を抑制すること。変状が進行している可能性があるため、動態観測により変状状況を把握し記録を残すこと。	診断に基づき変状箇所の動態観測、恒久対策のためのボーリング調査を実施。	
9	国道29号	兵庫県姫路市石倉字上ノ山姫路第二切土17法面変状	2023年12月14日	神戸大学 沖村名誉教授 関西大学 小山教授 明石工業高等専門学校 鍋島教授	法面全体に亀裂と湧水跡が分布し、亀裂が顕著な箇所は吹付が浮いており、小破片の落下もみられる状態。	亀裂の状態から流紋岩の風化による崩壊の恐れは小さい。吹付けモルタルの施工にも問題ない。遊離石灰が多いことから水質の問題だと思われる。どのようなメカニズムで遊離石灰の発生が起きているのか、水質の変化を捉えていく必要がある。法面全体の変形の状況により対策方法を検討する必要があるため、定点を配置して測量等、少なくとも1~2年程度の間は変形を確認すること。	吹付片落下に対する応急対策を実施するとともに、全体の変形を捉えるための調査を検討する。	